

2010年 京都主要繊維問屋動向調査

売上高2.2%、仕入高0.4%、在庫9%の各減
売上高は原料高騰の白生地卸が唯一プラス

月例調査による「京都主要繊維問屋 40 社売上動向調査」の 2010 年（1 月～12 月）年間集計がまとまった。売上高は前期比 2.2%、仕入高同 0.4%、在庫高（各月末平均）同 9%の各マイナスとなった。

年間推移をみると、白生地卸は 1 年通じて生糸価格の高騰が続き、白生地価格の上昇を見据えた仮需が見られるなど売上高がプラスで推移した。染呉服製造卸と呉服卸は、小売市場の需要減少とローン規制による販売縮小を背景に売り上げはマイナス基調が先行、5.8%、1.3%の各減だった。

婦人服と同服地は、百貨店やスーパー等流通大手の販売低迷、アパレルメーカー再編、縮小等の影響もあり、年間通じて販売は苦戦。寝具・寝装関連は輸入素材を扱う企業で原料高騰による製品高で売り上げを伸ばした企業も一部であったが、平均では売り上げはダウンしている。

月別では、上半期（1～6 月、22 年 8 月 4 日付レーダー掲載）が白生地卸 6.1% 増、染呉服製造卸 7.1%、呉服卸 2.3%、洋装寝具 6.5%の各減、4 業態平均 4.5% 減。

下半期、7 月は白生地卸と染呉服製造卸、洋装寝具が売り上げダウン、呉服卸は消費者催事（祇園祭）の堅調で売り上げはプラスを確保。8 月は染呉服製造卸が備蓄期で仕入れ増加、呉服卸は実需前の閑散期でともに売り上げはダウン。9 月は染呉服製造卸が唯一プラスだが特殊要因（在庫処分）があった。10 月は 4 業態ともに売り上げ減少。11 月、12 月は、寝具が気候要因（気温低下）で冬物商材が動き、寝具の売り上げアップが寄与して洋装寝具の売上高が伸長。一方、和装 3 業態では、白生地卸と呉服卸が一進一退、呉服卸の売り上げ減少幅も縮小がうかがわれる。染呉服製造卸は委託増加による販売不振と仕入高増加（白生地価格上昇）の両面で苦戦が続いている。

| 摘 要 | 売上高 | 仕入高 | 在庫高 |
|-------------------|-------|-------|--------|
| 白 生 地 卸 | 2.1 | 1.1 | △ 7.2 |
| 染呉服製造卸 | △ 5.8 | △ 1.7 | △ 11.1 |
| 呉 服 卸 | △ 1.3 | △ 0.3 | △ 9.2 |
| 婦人服・同服地・寝具 類 卸 | △ 2.3 | △ 0.3 | △ 6.7 |
| 総 平 均 | △ 2.2 | △ 0.4 | △ 9.0 |

前年同期比増減（△）率%